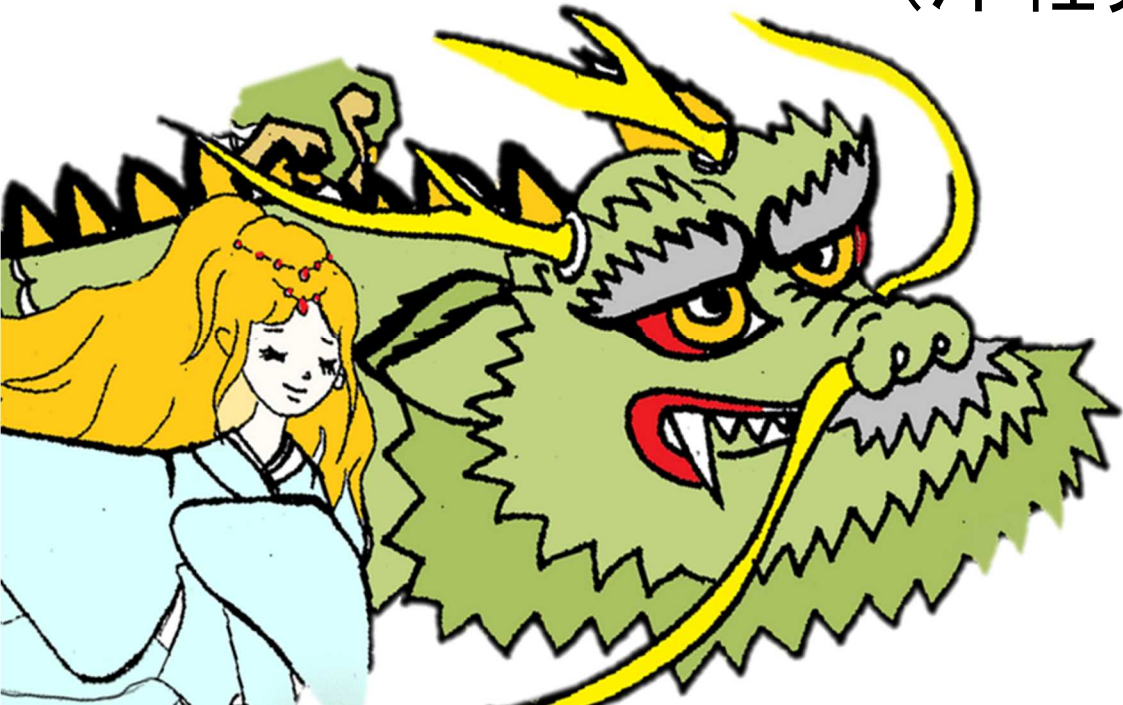


つがるの昔っこ (昔話) ②

龍神様のお礼

(津軽弁Ver.)

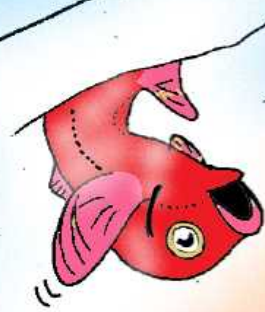
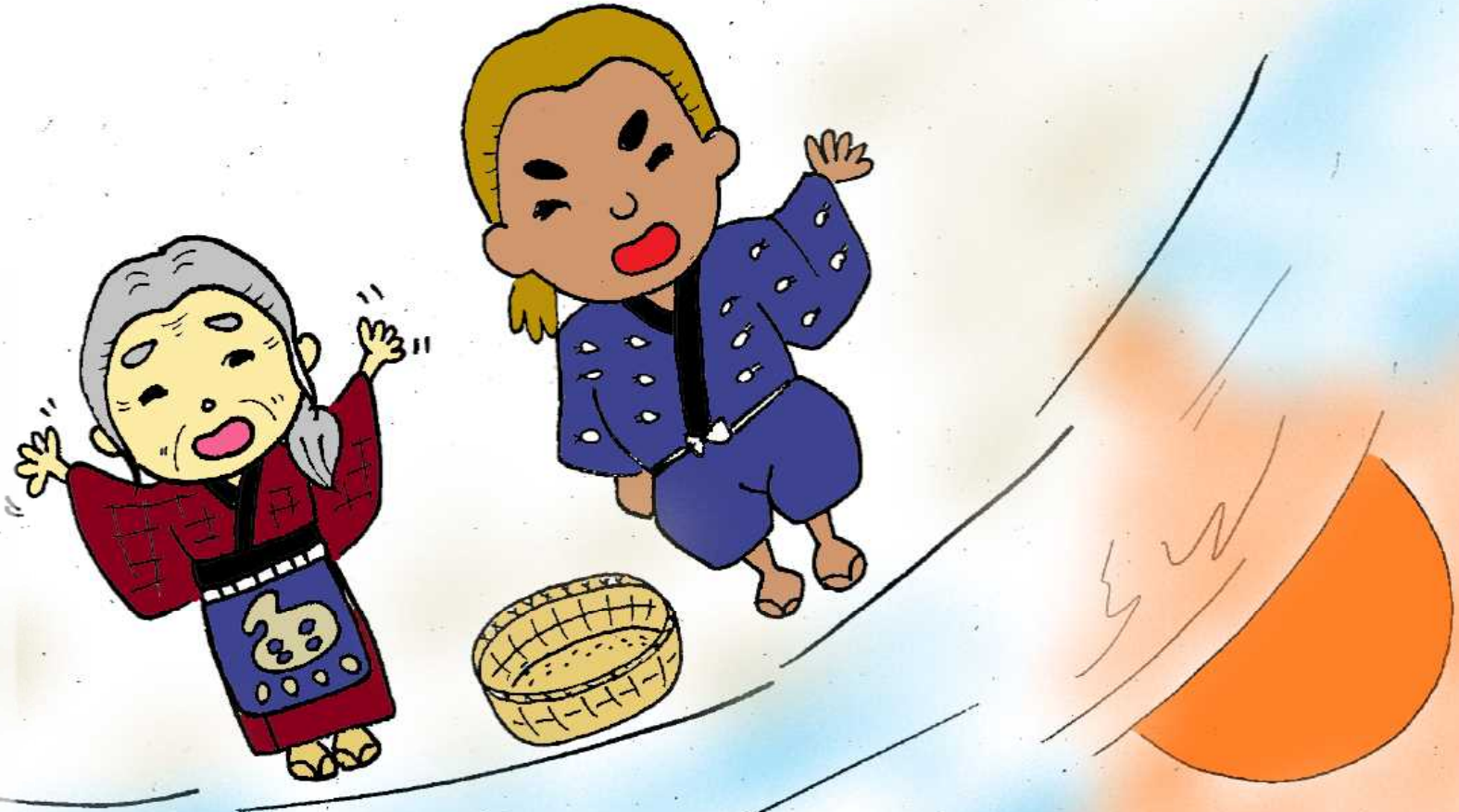


国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：つしま けいこ

むがし、あるちべえただ（小さな）漁村の村外れさ、ふとりのあに（一人の男）ど母親ど居であたど。このあにあはだらぎもん（働き者）でせ、一生懸命はあ稼いで、母親とば養っているんだど。



2人とも、病気ふとつ（ひとつ）もさねんで（しないで）まいにち（毎日）暮らしていげるだけのさかなコ（魚）、海がら恵んでもらってるどごで、あにあ（男は）漁が終われば、その日捕れださかなのなが（中）で、いちばんいいのば（一番良い物を）選んで「これは龍神様さ捧げます」ってして、海さ戻すんだど。



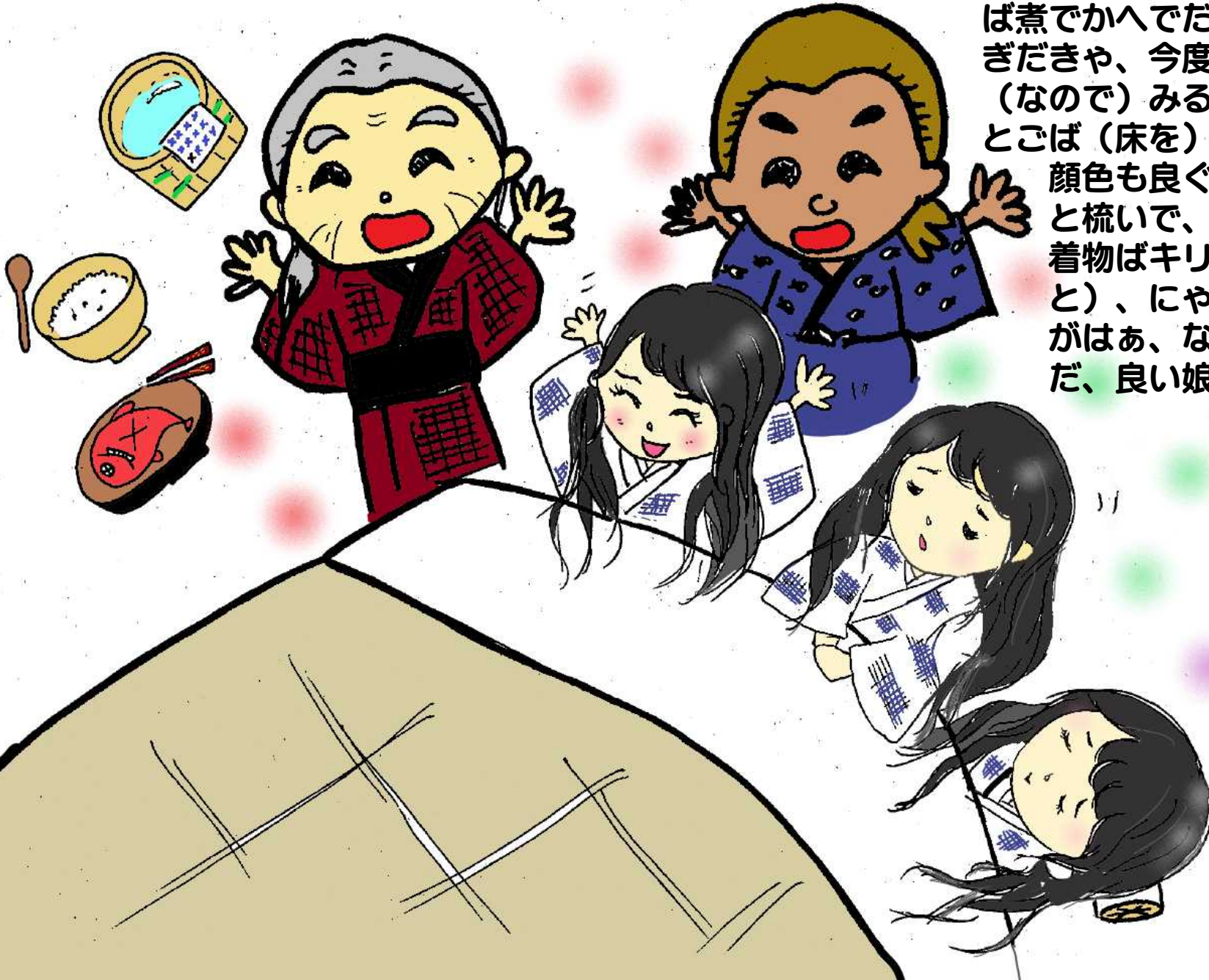


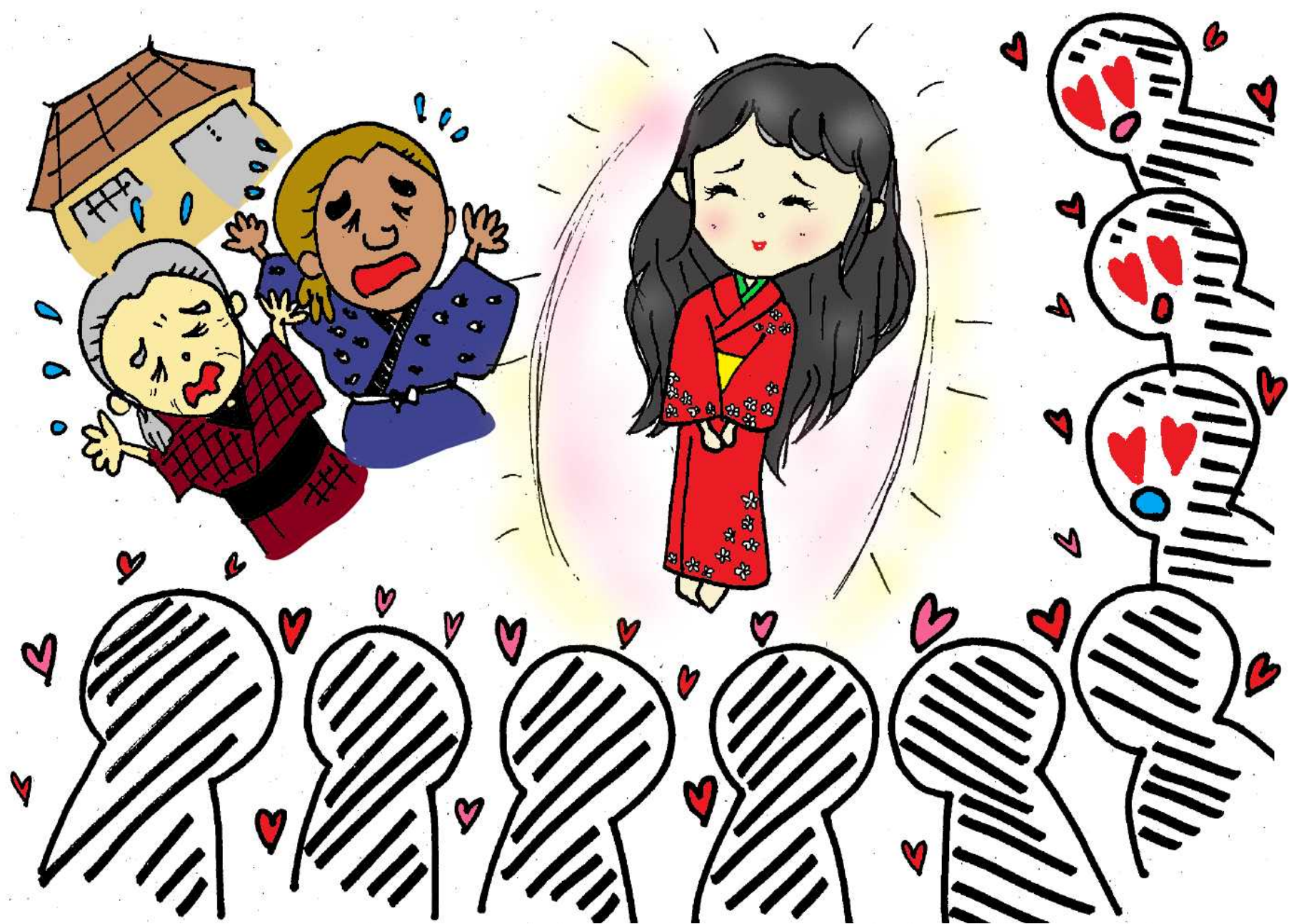
まいにちまいにち そうやって龍
神様さ捧げ物をして、今日も戻り
しな（際）に、海ば拝んで浜さあ
がって きたつきや（来たところ）、
浜のまづ（松）の木の下さ
きれえがだだ（綺麗な）娘コ倒れ
で あたんだど（いたそうです）。

見だごともね（見たことのない）娘であったとごで、「おいおい、どしたんだば（どうしたの）？ん、気分でもわりのな（悪いの）？おめえどっから来たんだ？」って聞いたつきや、「わだし（私）、ずっと遠くの海の向こうから旅して来たんですけど、長旅で疲れで、倒れでしまいました。お願いします、どうか一晩泊めてください。」ってした。「んん、いや おら（俺）の家は こきたねえ（汚い）あばら家だけでもや、それでもまあいんだば泊まっていげ」ってして、娘さ かだ（肩）貸して つで（連れて）もどったど（帰りました）。

母親、とづぜん（突然）のわけ（若い）娘の きやぐ（客）に どってん（びっくり）したばって、布団
ば敷いで、熱い おがゆ（粥）をこへで（作って）かへでけだ（食べさせてあげた）ど。娘あよほど疲れ
が 出だどもんだ（たまっていた）ど見えで、次のし（日）も、まだ次のしも とごさつだまんま（寝たま
ま）であったんだど。だどごで、母親 はあ付きっきりで看病して あにや捕ってくる捕れたでの さがな

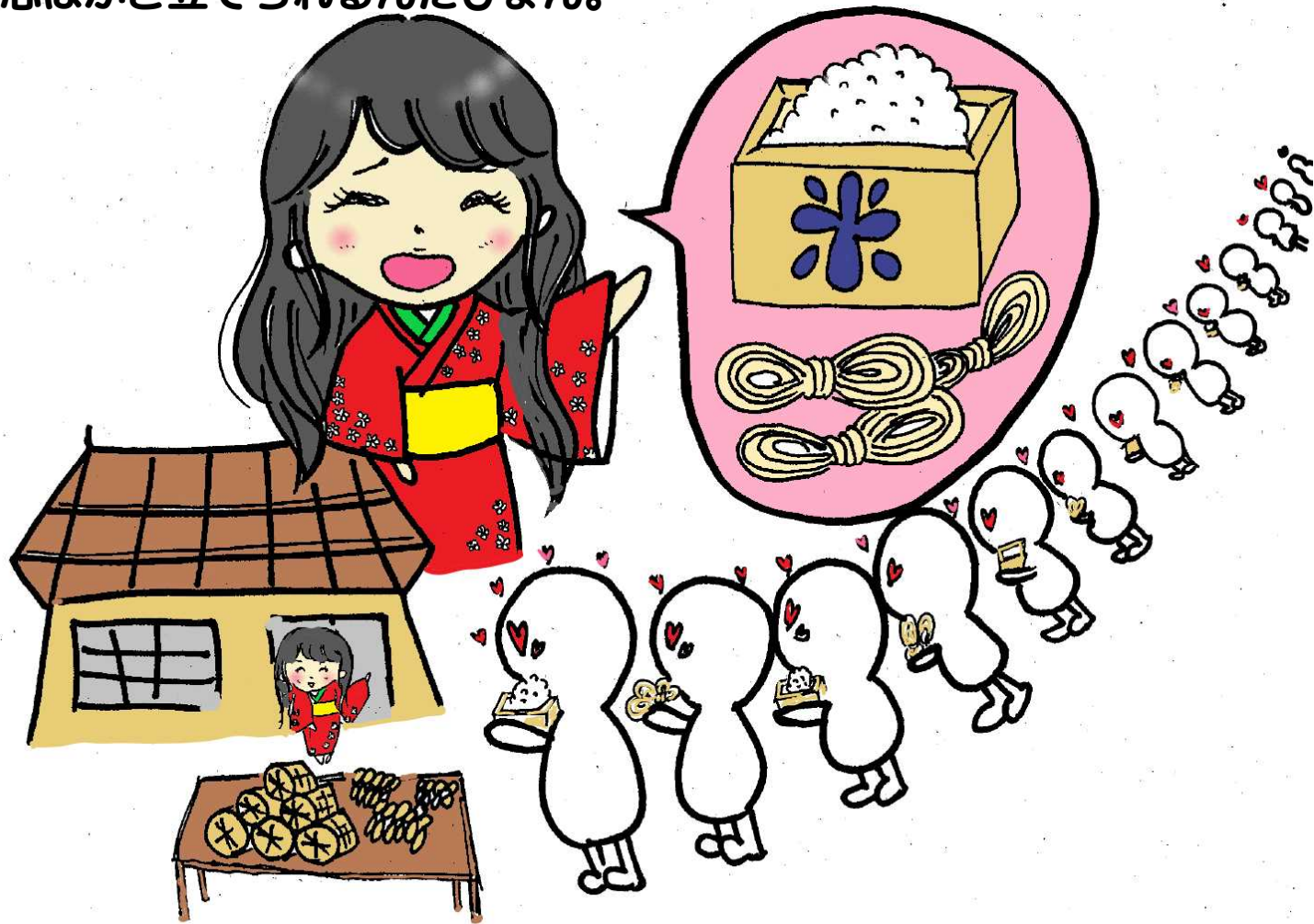
ば煮でかへでだど。4, 5にぢ（日）過
ぎだきや、今度あわけえ娘 だどごで
（なので）みるみる はあ元気になって、
とごば（床を）上げれるようになった。
顔色も良くなってきた、今度あ髪ご
と梳いで、母親が洗っておいでけだ
着物ばキリツと着たつきや（着る
と）、にやにやにや（いや〜）これ
がはあ、なもかも（どうにも）美人
だ、良い娘であったんだど。





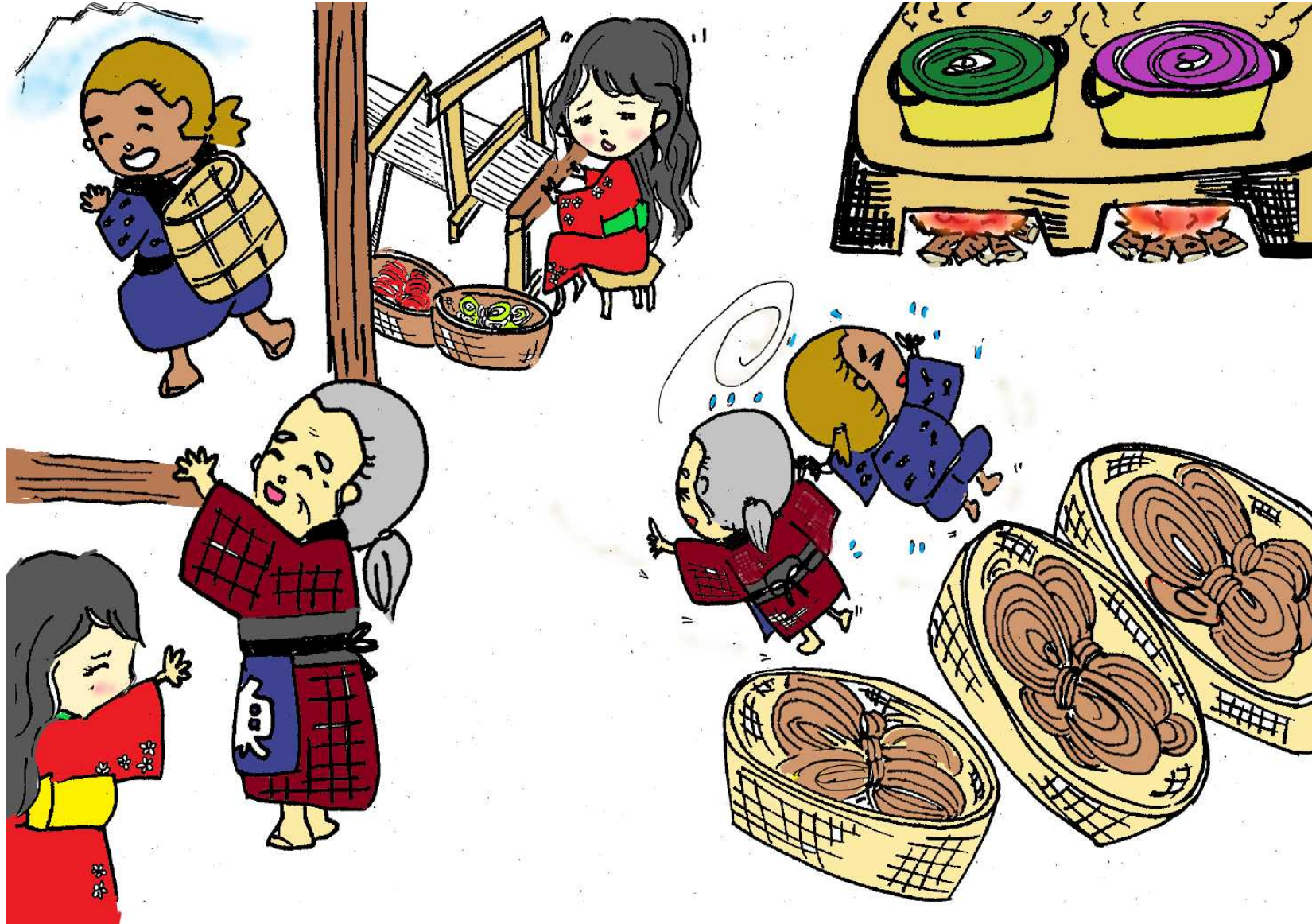
小せえ村コのこどだもの、この美人の娘のごとはああっという間に評判になって、むらなが（村中）の者だちはもどより、隣村だの遠ぐのまち（町）がらでも はあ娘ば見てえずごとで来るふと（人）いるんだどせ。娘はあんまり自分のごとは かたり（語り）たがらねであつたばって、名前コ聞いだきや「波といいます」ってした。評判が評判を呼んでせ、まいにち（毎日）まいにち娘ば見に ふとはあ あづまって（集まって）来るもんだどごで、兄も母親も困ってまたんだど。

そうしたっきゃ、波「わだしを見たいんだったら、麻糸一卷きに米一合持ってきた人さだば会ってもいいです。」ってしたど。そしてそれば今度あ、母親さ触れさせだんだどさ。人の気持ちずものは おがしいもんだ。タダで見せるってすよりも、「見てだら（見たいんだったら）物持て来い」ってしたほう がほら一層好奇心ばかき立てられるんだびょん。



今度あ麻糸と米を持ってくるふと（人）が列をなしたんだど。戸口の前の台の上さ、麻糸ど米コど置げば、波あ今度あ戸口の掛けむしろごと くるくるくるくる〜って まくってニコラって笑て「ありがとうございました。」って、はあまるで玉コ転がすいた良い声で一言しゃべって、また、はあニコラッてすもんだどごで むしろコ はあパラパラパラ〜って おぢでまっけてがらでも（おりてからでも）、波ば見た人はあ、しばらくぼーっとしてはあそごさ立ってるとだど。これだどごではあ、もう何日もただねうち麻糸 山のように集まってまった。

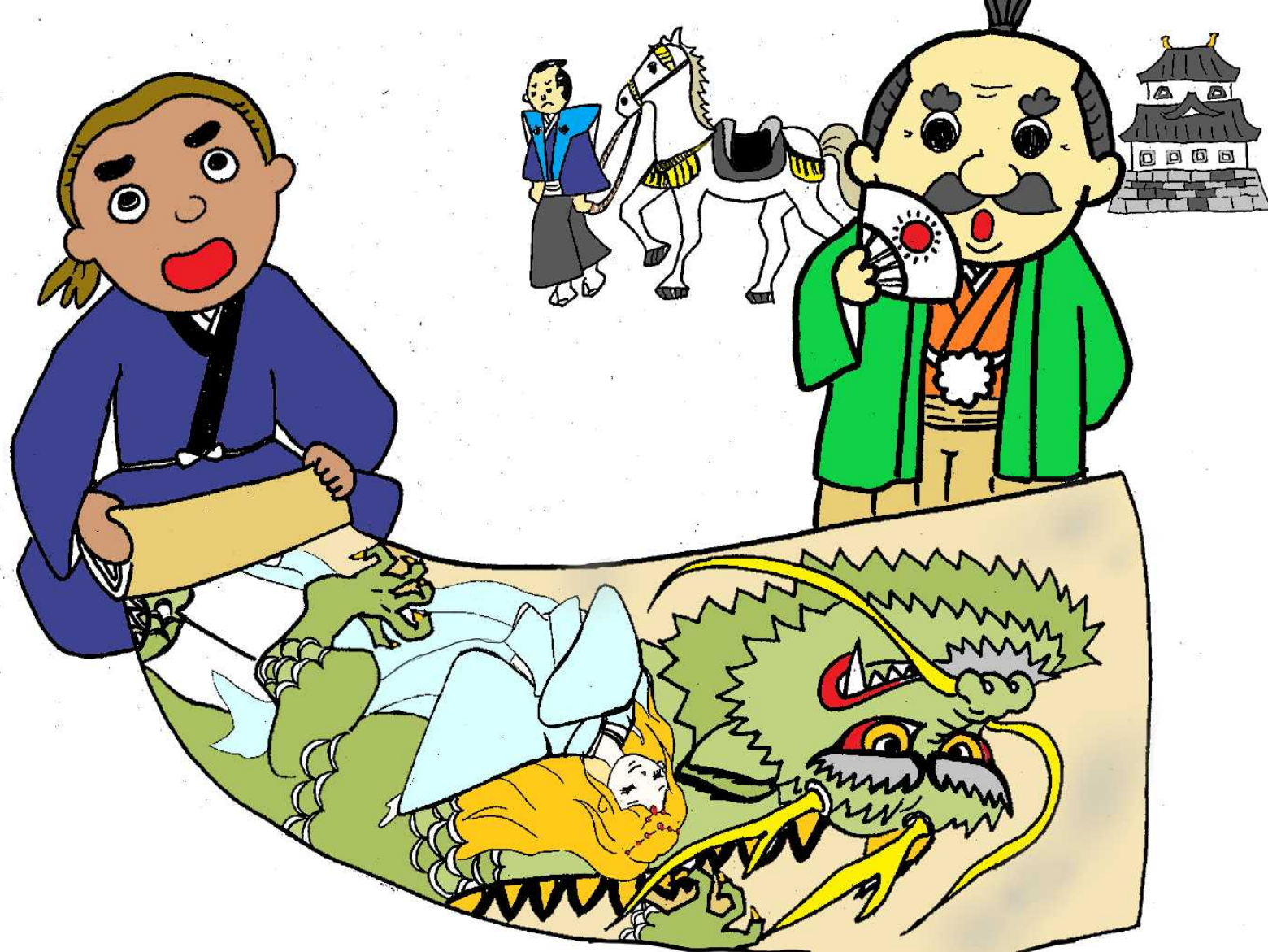
波あ、したきや今度 あに さ頼んで山さ行ってもらって、あの草、あの花て、いろんだ（いろいろな）草花と集めでもらって、それば今度煮だ汁で麻糸 はあ様々だ色コに染めだんだど。そして、その麻糸の染め上がったところで、今度あ「お母様お母様、私さその物置ば貸してけへ（下さい）。」ってして、物置さ今度入って行って一日中はだ（はた）織ってらんだど。母親もあにも、織っている物を見たくてそばさ いぐきがれば（行こうとすると）、波あ今度笑いながら首コ振って「これ出来上がれば真っ先にお二人にお見せするはんで、出来るまで見に来ないでください。」ってすもんだどごで、二人は毎日そわそわそわそわしてらんだど。



春過ぎで、夏過ぎて、そして秋になったある ばげ（晩）、波あ「出来ました」って物置から出できたど。波がその織物ば開いで見せだっきや、それまだ はあ でっただ（大きく）見事な龍の模様ど、その龍の上さ きれえがだだ（綺麗な）衣装を着た女の模様どが織り込まれであったど。それはあまり見事だ出来映えだどごで、2人 はあ声もなく、ためいぎ（息）ばついで眺めてら。だきや（すると）、波ああにさ向かって「お兄様、お前様これ持って明日街さ行って売ってください。あたい（値段）は百両ですから。」ってした。



あにあそれ聞いて はあびっ
くりしたども、今度あ次のし
の朝ま、言われたとおり、そ
れば かつで (担いで) まぢ
(街) さ売りに行ったど。ま
ぢの広場さ広げだきや、まぢ
の人だぢ 皆あづまって (集
まって) きてその見事だ織物
ば見て、みんな ためいぎ つ
いでせ、欲しい欲しいってし
たばって、なにしろ、百両
ず (という) 大金だ。だも
(誰も) 買えるふとあいね。
そのうちに夕方になったど。



たきやそごさ (するとそこに)、立派だ馬さ乗て家来ば従えた殿様 通りががった。ふとだかりしてる
もんだどごで、寄ってみで、たきやこれまで見たごとも ねんた (無いような) 立派だ龍の模様の織物
が置いてあつたど。この殿様せ、辰年生まれであつたどごで、すつかど (すっかり) この織物ば気
入ってまつたんだど。「これこれ、これは売り物であるか?」「へい、さようでございます。」「あた
いはいかほどじゃ?」「はい、えー、百両でございます。」「うむ、百両か。ならば余が求めてつかわ
す。ただし、今は遠乗りの帰り故、持ち合わせがない。一緒に屋敷まで同道致せ」ってして、パッカパ
カパッカパカで歩き出した。

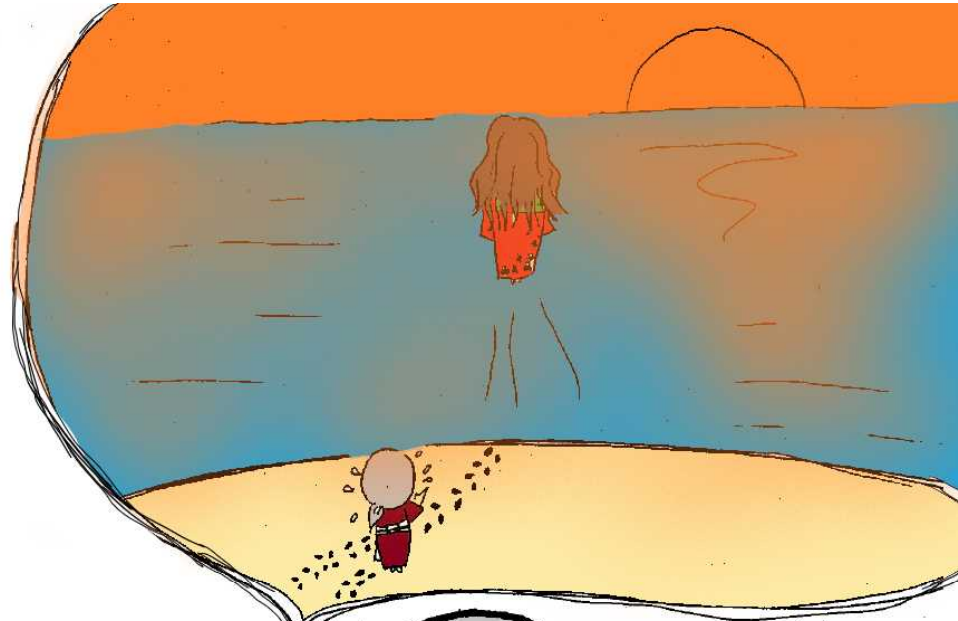
たどころで、あにあ今度お屋敷さ かだつて行って（ついて行って）、そして着いであら、その織物ば壁
さ掛けで見だきや、んたきやはあ～ さぎほどのまぢの広場さ広げでおいだよりも、一層立派に見えでせ、
龍だば今にも天さ 昇るいんて（昇るようで）あつたし、龍の上の娘の顔は神々しく輝いで、まるで乙姫
様だけんてあつたんだ。殿様は「ウム」ってうなって、じつと眺めであつたども、それがら一言「見
事じゃ」ては、満足そうにしてよ、おつきの者さ「あたいを払ってつかわせ」ってして百両くだされだん
だ。こんどああにも改めて掛けだ織物ば見だきや、内心どってん（びっくり）してまた。その織物の娘

の顔は、見れば見るほど、
今、え（家）さいる波の
つらコ（顔）どそっくり
であつたど。

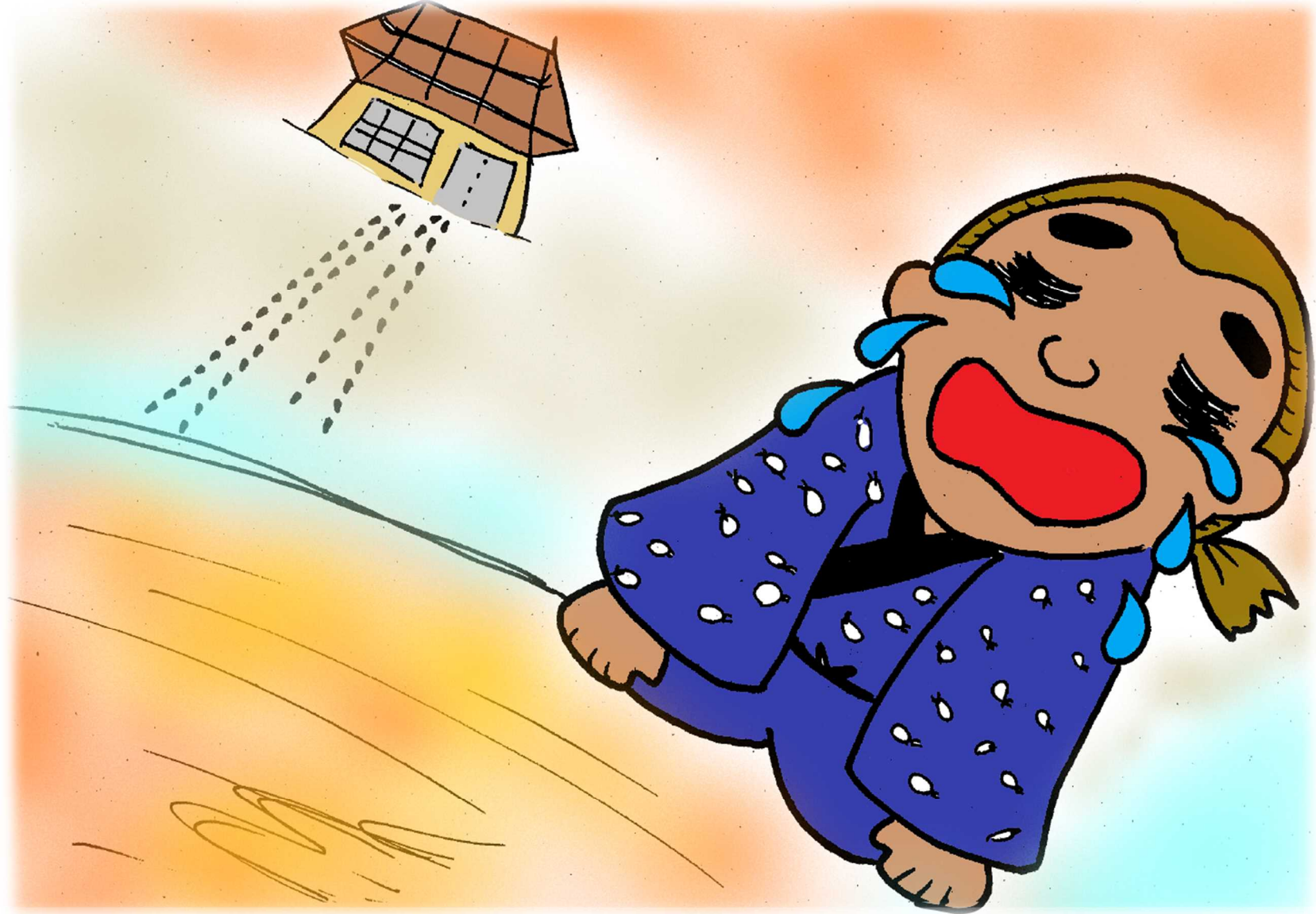


あにあ今度急いでえさはっけで(走って)戻った。「波あ、波いだがー？」えさ入ったきや、母親だけ一人、ボワーとして座ってあったど。

あに「波どうしば？」って聞いだきや母親 急に涙ボロボロボロボロ流して「さきた(さっき)わ(私)ど二人で浜さ行ったのよ。そしたきや、波あ「お母様、長い間お世話になりました。おかげさまですっかり元気になりました。今日ここでお別れしたいと思います。大変楽しい日々でございました。お別れするのは私も辛いのですが、どうしてももう帰らねばなりません。くれぐれもお兄様によろしくお伝え下さいませ。」ってして海の上ばスタスタど歩ておぎ(沖)の方まで行ってしまったのさ。波あきつと、神様のご化身であったんでねべが、..」



さあ、それ聞いた あにあ、ドツと飛び出して浜さはっけた。えがら二つの足跡 波打ち際まで続いで、そこから一つの足跡は海のなが(中)さ消えであった。あにあ「なみー なみー なみー」っては、声かれるまで呼ばたども(叫びましたが)、波あもう居ね。ちよんど(丁度)沈んでいく、真っ赤だ夕日さ照らされた あにのまなくさ(目に)、涙コトポトポど溢れでよ、ポタラッ ポタラッど落ちで、砂に吸い込まれでいったんだと。



百両の大金は龍神様のお礼であったんだびよん(だったのでしょうか)。百両持てば大金持ちだ。何でも出来るし、何でも買える。したばて、あににとっては貧乏でもいい。何よりも何よりも、波ど一緒に暮らしたくてあったんでねべがな〜。

とつつばれ